

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

「自分で」だから楽しい

育脳寺子屋は約 90 分の授業時間の中で、各自決められた学習内容をすべてこなさなければなりません。当然、することが遅ければできる量が少なくなりますし、することが早ければほかの人よりどんどん進んで学習することだって可能です。

そのような中で子供達は低学年であっても、「時間的な感覚」や「段取り能力」を知らず知らずのうちに身につけていきます。この力は社会人になっても必須の能力で、大人になってから鍛えようとしてもなかなか難しいのです。

その「自分で授業を組み立てている」という満足感・達成感が「自信」になり、また「楽しさ」に繋がるのです。

「最近、集中力が付きました」

「物事にじっくり取り組めるようになりました」

というコメントを頂くことがよくあります。これはまさに上記のような満足感・達成感から『自己肯定感』を高められている証拠なのです。

主役は「先生」ではなく「生徒」

そして普通の塾との大きな違いは「自学自習」スタイルだということです。

イメージして下さい、大手の塾や予備校の授業を。

経験豊富なベテラン講師が熱のある授業をして、生徒達がそれに見入っている。

そんな場面が思い浮かびませんか？

そのイメージはほぼ正解だと思います。多くの塾では主役は「先生」なのです。先生が入念な準備をし、シミュレーションを繰り返し、授業をします。

入念な準備をし、シミュレーションを繰り返すことは授業の品質向上のため必要なことですが、あくまで勉強をする主役は「生徒自身」でなければなりません。

現在小4になったある塾生がお母さんに

「学校は先生が黒板に問題を書いて、僕らが解いて、間違ったらすぐに正しい解き方や答えを言う。育脳寺子屋みたいにもう一回考える時間が欲しい。」

と言っていたそうです。

本来、子供達は（大人もだと思いますが）「分からないことが分かる」のは、すごく嬉しい、楽しいことです。しかし一斉授業だとカリキュラム上進めなければならないペースがあるため、そのような方法にならざるをえません。

そのような理由から個々に合わせた指導を、ということで「個別指導」が流行ったのですが、ほとんどの塾は学生アルバイトです。個別で質の高い先生を付けようとしたらそれこそ月謝が軽く数倍になるでしょう。

少し話がそれましたが、上記の塾生は「自立学習」の習慣を身につけた上で、**自分自身で「わかる」ようになる喜び**も身につけているのです。

小学3年生くらいまでは学校の勉強がそこまで難しくないので、「自学自習」の学習習慣を習得するための時間に充てられるのです。

低学年のうちにこの習慣を身につけられれば、勉強が難しくなる小学校中学年～高学年、中学に入学してからも**「教えてもらっていないからわからない」ではなく、なんとか自分で調べたり、あれこれ考えてそれなりに答えを出せるようになります。**

小学校中学年～高学年で入塾してくる場合、勉強は「教えてもらうもの」という価値観が付いている場合が多く、そこから「自学自習するもの」という価値観に変えるためには、それなりの時間と本人の相当の努力を要する場合があります。

余談ですが、京都で御三家（嵯峨野、堀川、西京）と言われる高校のある先生の言葉です。

「入学者の約7割は大手塾出身です。しかし、大手塾出身の子は塾が完璧な対策をして、それで入学してきているので、伸びしろがない子が多い。しばらくしてついてこれなくなる子も多い。残りの3割は塾に行っていなかった、もしくは個人塾出身者で、入るときはギリギリだけど**『自分でする力』を持っているので、入ってから伸びる**」

育脳寺子屋はこの『自分でする力』を伸ばすことを一番の目標にしています。

お分かりの通り、この力は一朝一夕で身につくものではありません。本人の努力も必要ですし、指導者や親の根気も必要になります。特に親の気持ちとしたら数字で表される「成績」や「テストの結果」にすぐに反映されなければ、今の取り組みは間違いなのでは？と不安になると思います。

すぐに成績には表れなくとも個々様々な成長を見せてくれます。しかしその成長に、親はなかなか気づきにくいのです。

その「数字には表れない成長を感じて頂きたい」というのが、感想文を書いて頂いている一番の理由です。

育脳寺子屋の環境の中で、『自分でなんとかする力』は皆につきます。その力が身につくことが自信へと繋がり、「厳しい」を乗り越えて「楽しい」となるのではないのでしょうか？